

序

糖尿病治療の主役は言うまでもなく、患者さんである。患者さんが自ら行動を起こそうと思わない限り、良好な糖尿病のコントロールは得られない。

最近、糖尿病と診断された一人の患者さんが紹介されて来院した。糖尿病の病態に関して説明し、合併症に関して説明し、合併症を予防するために血糖コントロールが重要なことを説明し、そのために食事療法、運動療法が重要であることを説明した。まずは食事療法、運動療法の効果を観察した。ほとんど血糖コントロールの改善は認められなかった。ご自身は頑張っていると仰った。そこで、SGLT2 (sodium glucose cotransporter 2) 阻害薬の服用を勧めた。薬効と副作用に関して説明し、次回外来、来院してもらい尿検査を受けてもらったが、尿糖は検出されなかった。

患者さんが本当に糖尿病のことを理解し、治療の重要性を認識しなくては、食事療法や運動療法のような面倒なことをやるはずはない。また、薬もなるべく飲みたくないだろう。患者さんが糖尿病外来を受診したということは、一応医師の話聞いてもいいと思っているはずである。患者さんの受け入れ態勢について千差万別であることは当然であるが、医師が患者さんに対してもっとわかるように糖尿病のことを説明できたのではないだろうかかと反省せざるを得ない。

継続通院している患者さんからもたくさんの質問を受ける。おのおのの質問に対してわかりやすく説明し、患者さんが納得して帰られると、その後の血糖コントロールも良好に保たれていることが多い気がする。患者さんのモチベーションを保つために、医師のわかりやすい説明は極めて重要である。

本書は実臨床の場で患者さんにより良い理解が得られるために役立つ資料として編集したが、初版から時間が経ち、患者さんに最先端の知識を伝えるためには改訂が必要となった。本書が実臨床の場で患者さんの糖尿病の理解に役立てれば幸いである。

2016年12月

編者 綿田 裕孝